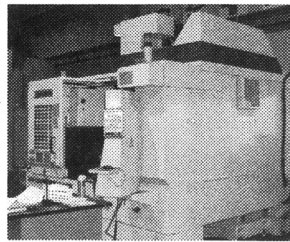


金属部品 受託加工強化

丸山機械製作所 設備・人員を拡充

【前橋】丸山機械製作所（群馬県高崎市、佐藤誠一社長、027・361・6631）は、金属製部品の受託加工事業を拡大する。8月にマシンニングセンター（MC、写真）、11月末に二酸化炭素（CO₂）アーク溶接機を導入した。同事業で13

人の人員も順次増やす。現在、受託加工事業の売上高は約3億5000万円、全社売上高の半分を占める。一連の増強を通じて、同事業を6億17億円に伸ばし、全社売上高も10億円に引き上げる。受託加工事業は群馬県



榛東村のハルナ工場で手がけている。導入したMC

Cはオークマ製でテーブルサイズが1500ミリ×900ミリ。アーク溶接機は350度回転し、左右に5分移動。2分弱のワーク（加工対象物）を一度に2個セットできる。2010年11月には滝沢鉄工所製の長尺旋盤も導入している。丸山機械製作所は海洋土木向けジョイントクッションや鉄道車両けん引車用ユニット部品などを製造。機械加工と溶接の

一貫体制や長物加工が得意な点を生かし、受注拡大を狙う。

自社製品では新聞折り込み機なども手がけるが、売り上げの変動が大

きいのが課題。受託加工事業の拡大で売り上げの平準化を進める。同事業で得た加工技術などは自社製品の競争力向上に生かす。